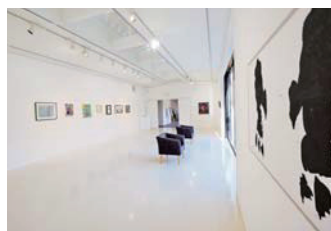




可能性は「無限大」 イノセント(無心)なアートで受賞続く〈アトリエ彩〉



コロナ禍で揺れた2020年に別れを告げ、2021年は明るい年でありたい!その願いが届いたかのような朗報が、昨年末ワークショップ「アトリエ彩」に届きました。「令和2年度三重県障がい者芸術文化祭」で、**河本晃司(かわもとこうじ)さんの作品「無限大」が、最高賞となる知事賞(書道部門)を受賞。**また、**武藤誠(むとうまこと)さんが作品「顔」で実行委員会賞(絵画部門)を受賞し、**明るい話題に包まれた年越しとなりました。

「**三重県障がい者芸術文化祭**」は県内を巡回する形式で毎年開催地を変え、2019年に亀山市で開催された第8回大会では、山崎智明(やまざきともあき)さんが「亀山市長賞」を受賞。昨年11月末に松阪市で開かれた第9回大会では、絵画や陶芸など全8部門に478作品という過去最多数の応募があり、障害者芸術文化活動のすそ野は年を追うごとに広がりを見せています。

それら作品が愛されて止まないのは、ながめていて素直な心になれることです。刻みこまれた記憶や、浮かんだ形や色を思うままに表すアートは、「心」が投影された結晶。**作者にとって創作は、自分の存在と向き合い、生きている証を得る日常**なのでしょうか。創造力が尽きないのは、きっと息をするのと同じくらい自然な営みなのかもしれません。



「令和2年度三重県障がい者芸術文化祭」知事賞(書道部門)を受賞した、**河本晃司(かわもとこうじ)さん。**(裏面で作品を紹介しています。)



武藤誠(むとうまこと)さんは、11月に開催された「第6回東北障がい者芸術全国展」で油絵「生命体(写真)」の入選に続き、連続受賞となった。



「令和2年度三重県障がい者芸術文化祭」**実行委員会賞(絵画部門)**受賞作品「**顔**」。
素直に女性の「顔」を描きたいとキャンバスに向かい、ペインティングナイフで面白い表現ができたことで更に創作意欲がかき立てられ、夢中になって一気に描き上げたそうです。



作品は定期的に入れ替え、開催しています。展示に際しては、入館状況により空気を入換えるなど感染拡大予防策を行っております。ご来廊の際はカフェ輪店員に一声おかけ下さい。

現在ギャラリーで『**アトリエ彩アーティスト常設展**』を開催しています。第5回東北障がい者芸術全国展入選者の**西口武延(にしぐちたけのぶ)さん、的場乃莉華(まとぼのりか)さん、**2017年亀山トリエンナーレの参加作家の**菅尾博司(すがおひろし)さん、**2019年三重県障がい者芸術文化祭亀山市長賞を受賞した**山崎智明(やまざきともあき)さん**といった、**アトリエ彩に集うすべてのアーティスト作品を展示**しています。密を避け、無心になって作品とじっくり向き合い、ゆったりした新年のひと時をお過ごしください。(作品の一部を裏面に紹介しています。)

ギャラリー 名張市百合が丘東9番町290番地 TEL 0595-62-3272(アトリエ彩)
11:00~17:00(月~金曜日)・土日祝休館
※時節柄期間中でも中止する場合がございます。その際は、カフェ輪のブログで発表します。
<https://caferin.hatenablog.com/>

取材: 広報委員会

ギャラリー常設展の作品を、このMiRAiでもいくつか紹介します。少しでも、心に届きますように!
(ご来廊時に、作品が入れ替わっていることもございます。予めご了承ください。)



河本晃司「無限大」
名張育成会で漉いた厚手の和紙へ、感じるままに筆を振るうことで生まれた、宇宙を感じさせる作品です。



服部一馬



菅尾博司



浅井幸男



https://www.instagram.com/atelier_sai_n/
<https://www.facebook.com/workplaceateliersai/>
本年も、どうかよろしくお願いたします。

令和三年元旦 アトリエ彩一同